



北海道での交換留学を通して

平成 28 年 10 月～平成 29 年 3 月

北海道教育大学釧路校地域学校教育専攻教育理論分野留学

糸満 有紀子

(琉球大学教育学部学校国語教育専修・コース)

半年間の北海道釧路への交換留学は、私の人生の宝物です。北海道でできた沢山の思い出は、思い出すと吹き出してしまったり、離れた友達のことを思うと胸が苦しくなったりと、今でもとても鮮明に残っています。この留学制度を支えてくださっている方々と、私を笑顔で送り出してくれた家族、そしてこの留学で出会えた友達に感謝の気持ちを持ちながら、あっという間に過ぎた北海道での半年間を振り返りたいと思います。

沖縄の地を離れて生活するのは初めてだった私にとって、北海道という沖縄とは真逆の地での生活は本当に驚きの連続でした。沖縄ではまだまだ暑い日が続く 9 月の終わり、北海道に降り立った瞬間その寒さに驚愕し、なぜか一緒にいた友達と大興奮したのを覚えています。それからは雪が降る日を今か今かと待ち望み、天気予報と窓の外のチェックの毎日です。その期待もあって、釧路で初めて雪が降った日は、お風呂上がりの濡れた髪もそのままに外に飛び出し、薄く積もった雪を手でかき集め、雪だるま作りに夢中になりました。北海道民は冬になると顔をしかめて、「冬は寒いし雪は重くて邪魔だしいいとこなしだよ」と一蹴でしたが、私たち留学生はこんな素敵なものが空から降ってくるなんて本当にうらやましい、遊びつくそう！とずっとはしゃいでいました。今振り返っても、半年間の生活の中で雪に飽きることは一度もありませんでした。

やはり一番の衝撃は寒さと雪ですが、北海道留学で印象に残ったことはもちろんそれだけではありません。もう今後半年間も北海道に住む経験はないのだから、行けるところは行きつくそうと決め、北海道の南から北まで、いろんなところに行き冬の北海道を楽しみ尽くしました。日本最北端の地稚内の宗谷岬、東北最大の都市札幌、運河の街小樽、異国の雰囲気漂う函館、大自然広がる知床、海外からもスキーヤーが集まるニセコ、ルスツ、監獄で有名な網走…ここには挙げきれないほどのたくさんの地を見て回りました。なるほど「北海道はでっかいどう」とはよく言ったもので、同じ「道」とは言っても行く土地土地で見せる景色は全く違います。沖縄も地域によってその特徴や雰囲気が変わるものですが、北海道はそもそもの規模が桁違いで、市の一つ一つが大きいため市町村の越境もまるで県境のそのような感覚でした。

行く先々で美味しいものにもたくさん出会いました。北海道というとまず一番に海鮮物が思い浮かぶでしょうが、その海鮮物がかすむほど、ほかにも美味しい食べ物であふれています。いももち、乳製品、スープカレー、札幌ラーメン、豚丼、エスカロップ、スパカツ、ミルクアイス、旭川ラーメン、ジンギスカン、どれも大好きな味で、沖縄で食べられなくなるのが辛すぎるね…と食べることが大好きな友達と、帰る前から寂しさを感じるほど惚れ込んだものばかりでした。並べられた料理を見てわかるように、これらを毎回出かける先で食べ、さらに日頃から寮のご飯を三食しっかり食べていると、運動しないことも相まって体重はどんどん増えていきました。これぞまさに幸せ太り、と最後の方は開き直りです。もりもり元気に沖縄に帰ってきた頃には顔もふっくらしていて、沖縄の友達も会うやいなや「美味しい物たくさん食べてきたんだね」と、全部お見通しでした。

少し真面目な話になりますが、私は、沖縄で国語を専門に勉強していることもあり、北海道の地

ではぜひ言語の差異や共通点、またそこに関連して文化などに注目してみたい、と考えていました。北海道での研究室も社会系の学びを中心としていて、私が興味を持った「アイヌ文化」についての研究に協力してもらいました。実際にいろいろな文化資料館や博物館に足を運び「アイヌ文化」のみならずもっと広範囲の「北方領土文化」について学んだり、「アイヌ人」として活動をしている人の話を聞いたりなど、北海道でしかできない学びを得ることができました。そのアイヌの現状を、沖縄と比較して考え、先生だけでなく研究室の仲間からたくさんの助言をいただきながら、真剣に「アイヌ」と「沖縄」に向き合いました。半年間では限界があり、自分なりの解釈を明確に提示するには至りませんでした。それでも自分の力で調べ、考えた経験は今後沖縄での学びに確実に結びついてくると思えるよい経験となりました。

ここまで振り返って一つ言えることは、行く前の私と帰ってきた私に、確実に変化が見られるということです。それは体重が少しばかり増えたという物理的変化だけでなく、内面にも感じられます。今まで想像でしかなかった様々なことに、実際に身一つで挑戦し体感した半年間は、「考えるよりもまず行動」を裏付ける半年間であったと感じます。これまで失敗ばかり恐れて挑戦することを避け、無難な選択ばかりを選んできた私にとって、「やらないとわからないことがあるんだ」、という経験はとても新鮮でした。いろんなことにチャレンジして、多少失敗したとしても、それを何度でも改善していける時間と体力がある学生のうちにこそ、もっと自ら手を伸ばして経験を積んでいきたいです。最後になりますが、この交換留学に関わってくださったすべての人に感謝の気持ちを述べて報告書を終わりにしたいと思います。ありがとうございました。